七つの約束2

環境配慮を品質の一部に含めた優れた商品・サービスを提供します。

当社は、製品が環境に与える影響の重要性を認識し、環境配慮は製品品質の一部であるという考えにもとづき、一貫して環境に配慮した製品づくりを行ってきました。
環境に配慮した製品とは、環境にやさしい素材・部品を用い、省エネルギー性を追求するのみならず、長くお使いいただける製品であることも重要な要素であると考えます。

品質基本方針

ナナオグループは、
質の高い優れた製品・サービス・ソリューションを提案・提供し、
お客様の信頼に応え続けます

1. 世界最高の技術水準を追求し、より優れた製品を目指す。
2. 環境保全責任を果たすべく、商品開発から生産・販売・サービスに至る全ての事業活動において、環境負荷の改善に取り組む。
3. 全ての事業活動において、全員参加の品質目標を設定・実行し、レビューする。
4. 品質マネジメントシステムを構築し、その有効性と適切性持続のため、定期的にレビューし、継続的な改善を行う。
5. 法的及び社会的な要求事項を遵守する。

ナナオの品質保証体制

当社は、品質基本方針にもとづき、お客様がEIZOブランド製品を長く安心してご使用いただけるよう、開発・製造からアフターサービスに至るまで一貫した品質管理システムを構築し、また常にその改善に努めています。

■ 開発過程

ご使用になるお客様の立場に立って、信頼性・安全性はもとより、環境適合性、省エネルギー、EMC性能※、エルゴノミクス（人間工学）、ユーザビリティ、サービス性などあらゆる観点において製品の開発・検証を行っています。さらに長期間にわたりご使用された場合においても、製品の性能・機能が維持されることを、長期ライフ試験において検証しています。

※EMC性能
EMC：Electro-Magnetic Compatibility（電磁環境適合性）

■ 製造過程

当社製品は、その基板生産から最終完成品製造に至るまで、すべて自社の生産工場における一貫した生産体制の下で製造されています。製品組立など、作業のばらつきが発生しやすい箇所には自動化ロボットを導入し、製品のばらつきを抑えるものづくりを行っている一方、表示画面の性能検査では、ご使用になるお客様の立場になって、人間の目による100%検査を行っています。

■ アフターサービス

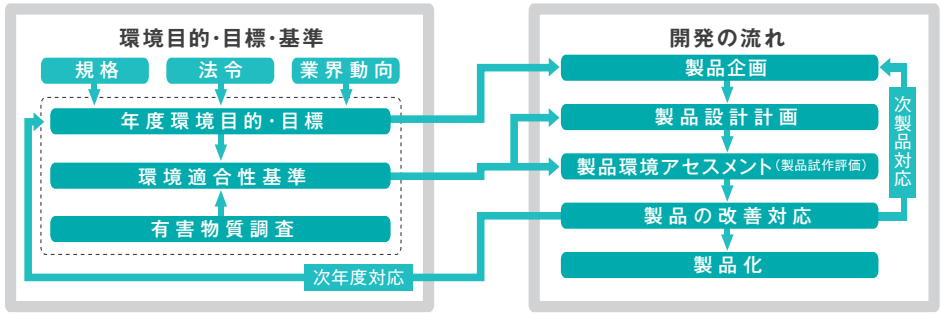
お客様からのアフターサービスのご依頼は、すべて本社内にあるエイゾーサポートネットワーク株式会社でお受けし、長く安心してご使用いただける体制を整えています。

また、お客様からいただいたさまざまなご意見は、次期製品へ反映すべく活用しています。

製品開発の基本フロー

当社の製品開発においては、各種法令・規制への対応を図ることはもちろん、国内外の規格、業界動向、社会情勢を考慮のうえ、製品環境配慮の向上を目指しており、当社独自で定めた「環境適合性基準」にもとづいて、製品環境アセスメント（環境配慮の度合いの評価）を実施しています。

「環境適合性基準」は、年度ごとに運営する全社環境目標の立案・実施・達成と相互に関連しており、これにより製品における環境配慮のレベルアップにつなげています。また「環境適合性基準」は、環境配慮への関心がますます高まる昨今の社会情勢において、さらなるレベルアップ、適性化を目指し、刻々と要求が高まる法令・規格、業界動向の変化に合わせて毎年改定を行っています。また、近年欧州を中心にますます厳しさを増しているRoHS指令やREACH規則などの化学物質規制に対応するため「グリーン調達基準」にもとづいて化学物質の調査・管理を強化しています。



■ 製品環境アセスメントの例

分類	アセスメント内容
1.分解・リサイクル性	ユニットレベルまで分解可能であること（分解は専門業者が行います） 一般的な工具で分解可能なこと（分解は専門業者が行います） 25g以上のプラスチック部品に材料表示が行われていること 25g以上のプラスチック部品はリサイクル可能な材料であること 梱包材用プラスチックにリサイクル表示および材料表示が行われていること 梱包箱に古紙（再生紙）使用のダンボールが使用されていること
2.取扱説明書	使用後の製品回収情報提供がなされていること
3.省エネルギー	国際エネルギースタープログラムに適合していること
4.有害物質規制	モントリオール議定書に定めるオゾン層破壊物質を社内工程で使用しないこと 25g以上のプラスチック部品に塩素系・臭素系難燃剤を含有していないこと

品質への自信～5年間保証～

当社は2003年、他社に先駆けて製品の5年間保証をスタートさせました。これは、当社製品品質に対する自信でもあり、お客様に分かりやすい形で当社製品品質を表現したものといえます。また、製品購入時から修理まで、安心して製品をお使いいただくためにサポートすることも、製品の一部であると考えています。そして、これからも当社は、EIZOブランドに対するお客様の信頼・期待に応え続けることをお約束します。

5年間保証

環境ラベリング規格への適合、法令対応

当社では、国内外の各種法令への対応はもちろんのこと、環境ラベリングについての規格への適合や、環境に配慮した製品の開発を進めています。また、自社製品の規格への対応や適合を進めるに留まらず、他社も含めた製品全体が少しでも環境負荷低減に結びつくよう、その一役を担うべく、規格の策定にも積極的に参画しています。

最近の例では、2008年に国際的にも認知度のある規格の一つであるTCO'03の次世代規格にあたるTCO Displays 5.0、そしてENERGY STAR Ver.5.0の規格発表がありましたが、当社はこれら規格の策定にも参画してきました。双方とも要求は非常に厳しいものですが、適合させることが自社に課せられた命題と位置づけ、今後とも製品開発を進めていきます。

TCO

当社製品における環境への取り組みは、主にヨーロッパの環境規格に対応することにより推進してきました。その対応の原点となったのは、スウェーデンの規格TCO'95であり、その後TCO'99、TCO'03とバージョンアップされ、現在のTCO Displays 5.0に至っています。この規格は、環境に関する要求事項に加え、安全、電磁波、エルゴノミクス他の要求事項をも盛り込んだ、いわば総合規格の性格を持っています。当社はTCOについては常に規格策定に参画し、先進的かつ効果的な規格化を目指すべく、規格内容の精査にも尽力するとともに、TCO Display 5.0については、2009年4月に世界ではじめて認定を取得しました。当社はこれまでにTCOの対象となるほぼすべてのモニターで当規格を取得しており、今後も当社製品において重要な規格と位置付け、この方針を継続します。

ENERGY STAR

1993年からアメリカの環境保護局(EPA)が、環境活動の一環として、年々増加するコンピュータ関連機器の消費電力を抑制するためにはじめたプログラムがENERGY STARです。日本では、日米政府の合意にもとづき、国際エネルギースタープログラムとして1995年から実施されています。

当社は、本プログラムの開始当初からこれに賛同し、またモニターメーカーとしては登録第1号となっており、以後ほとんどすべての製品が登録されています。

さらに2009年10月には、より厳しい基準のENERGY STAR Ver.5.0が発効となりましたが、当社は、発効と同時に適合を実現しました。今後の開発機種においても積極的な適合を目指します。

EPEAT

EPEATとは、米国環境保護庁(EPA)の関連団体にて2006年より運用されている、パソコンとパソコン周辺機器の環境に与える影響の総合評価基準です。有害物質削減、リサイクル設計、長寿命設計、回収リサイクル、企業活動など多岐にわたる、必達基準23項目とオプション基準28項目が存在し、オプション基準項目を満たす度合いより、「GOLD」「SILVER」「BRONZE」の3種類にランク付けされます。これまで数々のEIZO液晶モニターが「SILVER」にランクされており、2009年以降は「GOLD」ランクの製品を強化しています。

RoHS指令／WEEE指令

RoHS指令は、欧州で有害物質の使用規制を法制化したものであり、欧州連合EUで2006年7月から施行されています。電気・電子機器を対象に、地球環境や人の健康に害を及ぼす規制6物質、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、特定臭素系難燃剤であるPBB*、PBDE**について、使用の抑制・禁止を行っています。RoHS指令に適合していない製品は、EUでは販売することはできません。当社では2005年より切替を開始し、2006年5月に全対象製品への対応を完了しています。

WEEE指令は、廃電気・電子機器のリユース・リデュース・リサイクルを推進し、環境負荷を減らすことを目的に法制化されたものであり、欧州連合EUで2005年8月に発効されています。当社は欧州で販売する対象製品に対して、回収リサイクルシンボルマークの表示、リサイクル処理施設向けの解体・有害物質情報提供、回収リサイクルシステムの構築を行い対応しています。

＊ PBB(Polybrominated biphenyl):
ポリ臭化ビフェニル

＊＊ PBDE(Polybrominated diphenyl ether):
ポリ臭化ジフェニルエーテル

PCグリーンラベル

本制度は一般社団法人パソコン3R推進協会が運営する環境ラベリングで、①環境配慮設計製造、②使用後の回収リサイクル配慮、③環境情報開示、の3つのコンセプトから構成されています。当社は本制度の改定に同協会の製品環境技術委員会メンバーとして参画するとともに、当社液晶モニターのFlexScan、ColorEdgeの各シリーズにおいて積極的な取得を行っており、今後も引き続きこの方針を継続していきます。

EcoViewについて

EcoView 見えないところできっちりと。地球のことも人のことも。

最近ではユーザーの環境意識も高まってきています。そのような方々のニーズに応えるとともにより快適にご使用いただくため、2009年度においては、当社の人や環境への配慮の姿勢を「EcoViewコンセプト」としてご提案しました。

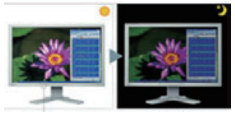
「EcoViewコンセプト」では、ユーザーが手間をかけなくても自然にEcoできることを目指しており、これに従い製品にはさまざまな機能を搭載しています。

「EcoView」コンセプトの環境配慮の3機能

■機能 1　Auto EcoView

自動調光機能

使用環境の明るさに合わせて自動で明るさが調整される機能です。自動調光機能が、輝度を適正レベルに抑えることで消費電力を低減します。



Auto EcoViewセンサー部

■機能2　EcoView Index

省エネ度合いをひと目で確認し、電力を意識

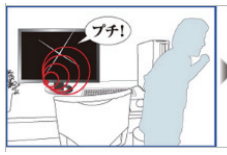
モニターの画像の明るさ（輝度）に応じた省電力の度合いを、わかりやすいゲージ状に表示します。省電力の度合いを見える化することで、ユーザーにも消費電力削減を促します。

EcoView Index表示

■機能3　EcoView Sense

人感センサーで自動にパワーセーブ

モニターに内蔵された赤外線センサーがユーザーの離着席を感知して、自動的にモニターのパワーセーブと復帰を行います。長時間使わない時には自然に省エネモードに切り替わり、ユーザーの使用頻度に合わせて無駄な消費電力を大幅に削減します。



▲離席を検知し、自動的にパワーセーブに移行。

▲席に戻ると自動的にパワーセーブから復帰。継続してユーザーの動きを検知して電源オンの状態を維持します。

節電効果の調査結果報告

■オフィスにおけるパソコンの使用時間

まず当社では、一般的なオフィスにおける液晶モニターの使用頻度を把握するため、社内でサンプル調査を実施しました。その結果、一日のうち平均で約29%が離席状態であり、1回の離席の80%以上は20分以内であることがわかりました。これは、液晶モニターの電力の約29%が無駄に消費されており、また離席のたびにこまめにモニターの電源をオフにすることで29%の電気量の節約ができることを意味しています。しかし、短時間の離席のたびにモニターのスイッチのON/OFFを行うのは面倒なものです。そこで役立つのが、離着席を感知し、モニターを自動でON/OFFしてくれるEcoView Senseだといえます。

■節電効果の試算

中規模のオフィスとして稼働8時間（1日）×240日（年間日数）、モニターを100台導入している企業のケースを想定し、以下の条件で節電効果を試算しました。

条件1:EcoView Sense機能も
Auto EcoView（自動輝度調整機能）もOFF

条件2:EcoView Sense機能をON、
Auto EcoView（自動輝度調整機能）をOFF

条件3:EcoView Sense機能も
Auto EcoView（自動輝度調整機能）もON

項目	条件1	条件2	条件3
製品名	FlexScan EV2333W-H		
EcoView Sense	OFF	ON	ON
Auto EcoView（自動輝度調整機能）	OFF	OFF	ON
消費電力	41W	41W	25W

これらの条件でそれぞれ試算を行うと、下表の結果を得ることができました。

項目	条件1	条件2	条件3
消費電力(kWh/年)	7,872	5,589	3,408
電気料金(円/年)	173,184	173,184	173,184
CO_2排出量(kg/年)	3,283	2,331	1,421
CO_2排出量相殺コスト(kg/年)	5,580	3,962	2,416
CO_2排出に対する樹木数（本相当/年）	234.5	166.5	101.5
電気料金(円/年) ＋ CO_2排出量相殺コスト(kg/年)	178,764	126,923	77,392

- 電気料金22円/kWh(東京電力Webサイトより)
- CO_2排出係数0.417kg-CO_2/kWh（エコリーフVer2.1より）
- CO_2排出量の相殺コスト1.7円/kg-CO_2
  (http://www.jpi.or.jp/carbon/h_index.html)
- 樹木1本あたりのCO_2吸収量14kg-CO_2/年(林野庁Webサイトより)

EcoView Sense機能の効果を確かめるため条件1と条件2を比較すると、削減コストは51,842円/年、CO_2削減効果は952kg/年でした。さらにAuto EcoViewをONにした場合の条件2と条件3の比較では49,531円/年のコスト削減とCO_2削減効果として910kg/年を計上することができます。

条件1と条件3の比較、すなわちEcoView Sense機能とAuto EcoView（自動輝度調整機能）の両者を有する場合と両者とも無い場合との比較では、削減コストは101,373円/年、CO_2削減効果としても1,862kg/年を得る試算結果となりました。